



**Children should not be sacrifice
to their parents.**

子供は親の犠牲になるべきではない

Interviewee

Ms. Katy Faust

Q. 自己紹介

Them Before US という子供の権利のための組織の創業者兼ディレクターをしている。

子供は、母親と父親を知る権利があるというのが、組織が掲げているパースペクティブ。

Them Before US は、養子縁組、離婚、シングル親、同性婚、生殖医療の利用などはすべて、子供に影響を与えるという見方をしている。何が子供の最善の利益か、子供のための権利擁護活動をしている。

権利擁護活動を通して Them Before Us が到達した結論は、親は、子供のためには犠牲にならなければならないということで、その逆ではない。不妊、同性間でのセックス、夫婦間での諍い、パートナーを持たずに親になることへの欲望、これらは、大人にとって深刻な取り込みだが、子供の健康はこれらの欲望に優越するものだ。

Them Before Us は 2018 年に結成されたが、子供には両親が必要だという考えは 2012 年から表明している。Them Before Us のディレクターとしての仕事に加え、フルタイムで雇用されていて、もう一つ別

の非営利団体でパートタイムの仕事をしている。さらに、フルタイムの母親でもあり、教会のコミュニティ活動にも熱心に関わっている。夫は牧師として働いている。

Q. ご自身が育った家族について教えてください。どのようにして今のような考えに至りましたか？

10 歳まで、結婚している両親の元で育った。その後、両親は離婚した。父親が他の女性とデートをしていて、その女性と再婚した。そして母親は、女性のパートナーを見つけて、その女性と一緒に住むようになった。自分は母親のパートナーと良い関係で、彼女を友人として認めていたが、母親ではなかった。彼女の、母親との関係は、互いにコミットしていても安定していた。母親（またはレズビアンの場合）は必要ないと子供に積極的に告げるゲイの両親について聞き、同性カップルの子育てに反対するようになった。

同性愛者の結婚、または同性愛者の子育てに反対することは同性愛嫌悪であるという主張に反対する。これは自分には当てはまらない。

父親または母親がいないことは、大きな喪失感につながる。同性親に育てられた場合、子供は母親/父親に対する渴望を感じる。喪失した親に愛されることを熱望する。これは、宗教的信念や同性愛嫌悪によって左右されるようなものではない。それは人間の真実だから。私たちは全て、男性と女性から生まれる。そして、両親の愛を切望する。歴史的に全ての社会が、このよ



うにしてきた。自分の理解では、それはラディカルな立場ではなく、自明なこと。

子供が母親/父親を失っても気にしないという考えは誤った物語であると思う。養子縁組の分野で長年働いてきたが、「もともとの家族」に興味がない子供にはいまだ会ったことがない。

現代社会では、大人と子供が、合意の上で決定をすることは許容されると思うが、その決定が子供の権利を侵害する場合、自分は反対する。

Q. Them before us の活動について教えてください。これまでの活動と、その成果について。

Them Before Us はまだ新しくて小さな組織だが、すでにかなり影響力がある。1年前に本を出版し、それを4カ国語に翻訳する契約を結んだばかり。ウェブサイトも2カ国で翻訳する予定もある。来週、組織を代表して会議に出席するためにブダペストとアルバニアに渡航する。

Them Before Us の目標は、心と法律を変えること。我々は、親の欲求を優先することが慣わしになっている文化に、子供の視点を提示したいと考えている。子供たちの人生にかかっている実際の負担を示すことができれば、危機に置かれているのは本当は誰なのかを人々は理解することができるだろう。

海外で導入されている法律を見ると、子どもの権利が擁護されていることは滅多にない。政策立案者には、交渉できない沈黙の当事者がいて(それは子供たちのこと)、最も失うことが多いのは子供たちであるということ理解してほしい。ウェブサイトではたくさんの個人的なストーリーを紹介し

ている。それらは、大人の決定によって子供に生じる3つの損失に基づいてカテゴライズされている。

- 1) 遺棄
- 2) 第三者生殖
- 3) LGBT の親

Them Before Us では、ボランティアでコンテンツを翻訳してくれる人を探している。子供の視点からニュースを発信することで、心と法律を変えたいと思っている。

Q. 活動はどのように賄われていますか？

Them Before Us は、これまでに1箇所から助成金を受け取った。Alliance Defending Freedom によるもので、15,000米ドルの提供を受けた。現在 GuideStar に参加しており、小規模なドナーとつながっている。一回につき、100ドルから2,500ドルの寄付がある。約10万ドルの年間予算を管理している。スタッフは少人数。

これは草の根の運動であると言える。このトピックについて哲学者や研究者と連携しているが、本当の意味で運動を推進しているのは、公的な肩書きを持っていないような人たち。

自分に十分な時間が与えられたら、おそらくすべての大人が自分のメッセージに腹を立てるだろう。親に対する子供の権利を確保することは、部屋の中にいる大人たちにステップアップを義務づける。たとえば、計画外の妊娠をしている女性には、子供のために生活を変えるように迫る。子供が家庭の分裂の負担に対処する必要がないように、自らの結婚生活の問題に対処することを大人に迫る。



離婚は、子供時代における逆境の経験であり、その後の人生で否定的な経験と呼び寄せる。子供を非伝統的な家庭に適応させるのではなく、父親と母親、両方の生物学的親を知る権利を保証する形で家族を形成することを、同性愛者の大人に迫る。不妊のカップルに対しても(第三者生殖を利用しないよう)迫る。親のいない子の福祉と里親に関わる人々にも、変化を迫る。

Them Before Us のスローガンは、「大人は子供のために困難に対処する必要がある」ということ。大人は家を持たない子供に家を開放する必要がある。唯一の選択肢は大人が苦しむこと。

それは大人に幾らかのコストを負担させるが、それこそまさに大人の責任というもの。これは困難なメッセージなので、あらゆるところに反対派を見つけることができる。

Q. ホームページには、どのような人からコンタクトがきますか?

ウェブページを通して連絡をとってくる人たちは皆素晴らしい。6つの大陸とすべての宗教(無神論者を含む)に支持者や援助者がいる。LGBTの人からのサポートもある。子供を守ることに関心があるすべての大人に門戸を開いているので、組織はかなり多様な人たちから構成される。家族の崩壊を経験した子供たちと、自分がしたことを後悔している大人がいる。家族の中でえた傷を共有するための、安全な場所になっている。自分が素になるためのスペースを提供する。母親/父親への渴望について正直に話す場所が他にない同性親を持つ人たちのために、非公開のグループチャットを行っている。

あなたが子供を最優先したいなら、あなたは歓迎される。こうした環境の中で、生き抜いてきた子供たちもそこには含まれる。

Q. カウンセラーは、親に対して、オープンドナーを使用し、子どもにはテリングをすれば、問題ないと教えています。これは正しいでしょうか?

DC(Donor Conception)から生まれた人がこの問いに答えるのに適任だが、自分の観察では、それは、ただ親が自分の重荷を子供に移し替えただけのこと。遺伝的繋がりへの欲求は、子供に移し替えられ、子供は失われた生物学的親を探そうとするだろう。社会は、親の願望ばかりに焦点を合わせ、子供には、自分が生きていることに感謝すべきだと伝える。

‘My Daddy's Name is Donor’という大規模な調査があり、これが参考になる。このテーマでは最大の研究であり、DCから生まれた人と養子を比較している。この結果が示すのは、養子の方が大抵、より良いということ。DCから生まれた人も養子も、共に親から傷を与えられているが、DCから生まれた人は、その結びつきを断った張本人の大人といっしょに住んでいる。養子の場合、成長の過程で悲しみと切望を感じるとしても、養親は自分を遺棄した張本人ではない。だから養子は、自分の喪失をオープンに嘆くことができる。

子供たちが両親をどれだけ信頼しているか、そして彼らが遺伝的両親と一緒にいる他の子を見るときにどれほど悲しんでいるかに関する心理学の調査結果では、しばしば養子の結果の方が良い。養子もアイデン



ティティの問題を持っているが、それについて両親と自由に話すことができる。

Q. 昨今、大勢の donor conceived の人が自分の経験を語っています。非常にネガティブなものから、ポジティブなものまで幅があります。どのような要因が関係していますか？

Them Before Us は、母親や父親を失い、傷ついた子供たちのためのスペースをぜひとも作りたい。大人の選択を支持する声をどこに行っても見つけることができる。それに対し、もし傷ついた子供たちが Them Before Us に来て自分の物語をシェアするのなら、それまで聞かれるチャンスがほとんどなかった、沈黙を破る声になる。彼らは、もし公の場で自分の真実の気持ちを吐露すれば、家族や仕事を失うだろうと感じている。

さまざまな喪失のカテゴリーを通して観察した結果、一つの類似点は、多くの場合、子供が痛みを受け入れるのは、家を出て家族から離れて約 10 年たった頃、または結婚するか、自分の子供を持ってから。子供たちが家に住んでいる間は、当然、依存と防衛がある。しかし、家を去った後、両親が揃っている他の子供たちが持っていて、自分が持っていないものを直視する。

DC コミュニティが、現在、声をあげるようになっている。コミュニティが組織され、活発になってきている。

Q. donor conceived の人で、声をあげて反対している人はごく一部だとみることができます。これについてはどのような感触を持っていますか？

本の最初に、「高くつく物語」という序文の中で、そのことについて書いた。どのように育てられたのか（同性の両親、シングルマザー、離婚によって片方の親と別れた）について話すことのコストは何か？両親の決定が子供にどのような影響を与えたか？真実を口にすること、それは、両親との関係を維持したい場合、おそらく家族の夕食のテーブルで話されることはない。それに対して、オンラインで、匿名で自分のストーリーを伝えることは、コストが低い。

この考えに反対を表明する人々（すなわち、自分の育ちに満足している人）は、自分の周りの人々からの愛と肯定を強調する。そういう人は、喪失感を感じる人よりも、失うものが少ない。

Q. donor linking システムや遺伝子検査は、donor conception で生まれた人にとって救済策になりますか？ donor-siblings と繋がることで、家族のような親密性を経験することができますか？

これについて個人的に話すことはできないが、書籍にはこれを列挙したセクションがある。ドナーきょうだいと会うことを熱望している子供たちもいる。しかし数十人ものドナーきょうだいがいることがわかって、圧倒されることもある。遺伝的繋がりは子供にとって重要で、それが商品化されることで親と子は分断される。

遺伝子検査は役に立つが、精子提供は単なる取引で、その後、一切関係ないと思っていた大人たちにとっては災いだ。子供たちが医療情報やドナーとの関係を求めて遺伝子検査に手を差し伸べるとき、それは親



にとって大きなショックになる可能性がある。

Q. 国際機関の子どもの権利をめぐる動きについて、コメントはありますか？

これについて具体的にコメントするのに十分な専門知識がない。しかし、この分野での議論の多くは「子どもの権利」に関するものではないと思っている。実際には親の欲望だ。子どもの権利条約（世界で最も広く批准されている条約の1つ）を検討すると、生存権と両親を持つ権利が書かれている。これを2人の親を持つ権利と解釈する人もいる（実際には誰でも構わない）。しかし、これは単に条約を親の欲求に合わせるものであり、本来の意図を無視している。進歩的な家族の概念が、そこに読み込まれようとしている。

子どもの権利という言葉が偽善化するのを止めたい。親が望むものを手に入れるために親の優先事項が密輸されるような形で使用されるべきではない。

Q. 子どもが欲しいという親の欲望をどのように抑制するべきでしょうか？

性的指向に関係なく、大人は子供に犠牲を強いるべきではない。これは、不妊の問題を持つ人、同性愛者、結婚生活に問題を抱える人、パートナーのいない人にも当てはまる。色々な状況の中で、常に誰かが困難なことをしなければならぬが、なぜ最終的に子供たちがその困難を引き受けなければならないのか？私たちがこの困難を子供たちに負わせ、それを進歩と呼ぶのは馬鹿げている。

レズビアンは父親の重要性を認識し、積極的に父親にアクセスできるよう努めてくれた。どちらも父親の代わりになろうとしなかった。両親は父親の貢献を十分に認め、評価していた。時々、両親と違った意見を持つこともあるが、自分の擁護活動について家族の中で根本的な摩擦はない。

Q. 遺伝的つながりがなくとも共に生活していれば、家族であるとも言われます。親子関係にとって遺伝子は最も重要なことでしょうか？

それは最も重要なものではない。それを定量化する方法はわからない。しかし、自分が研究から知ったのは、生物学的な親子のつながりが、子供を安全で愛されていると感じさせるのに最も効果的であるということ。統計的に、彼らが安全で愛されている可能性が最も高い場所は、結婚した異性愛者のカップルの家。

養親候補の親が養子縁組をする前に、数か月のチェックと調整期間を取る。しかし、これは、生殖補助医療を使用する場合など、他の形態の非伝統的な家族には当てはまらない。遺伝学は最も重要な側面ではないが、統計的に最大のセーフカードであるといえる。

遺伝的つながりはまた、子供たちに生物学的アイデンティティを与える。DCに関する調査を見ると、多くの子供たちがドナーについて知りたがっている。子供たちは、答えを得られない問いを抱えている。

Q. 精子提供で親になるレズビアンカップルが増えています。そのようなレズビア



ンカップルに育てられることは子供にどのような影響がありますか？

複数のマイナス面がある：

- 1) 子供は常に親の喪失というトラウマに苦しんでいる。この世への参入はトラウマフリーではなかった。これは、親の死、離婚、遺棄や養子縁組を経験した人、精子提供や代理出産などの生殖補助医療を使用して生まれた人も同じ。
- 2) 少なくとも1人の生物学的親が不在である。
- 3) 家庭におけるジェンダーバランスの欠如。子供たちは両方の性別からの愛を切望する。そうでなければ、子供は母親/父親に対する渴望を経験する。男性と女性は異なっている。男女の違いは家庭で最も強く示される。これらの生物学的な違いは、ホルモンとそれらが脳をどのように形作るかに関連している。母親は安全性、公平性、細かい技能に強みがあり、父親はリスクテイク、全体的な運動能力、身体性などの分野に強みがある。これは普遍的に観察される。どちらかの親を持っていない子供は、失われた親を渴望している可能性がある。

Q. 親が同性カップルで、donor conceptionに反対している人はいますか？

今まで、代理出産で生まれ、ゲイカップルの父親を持つ人とは接触していない。しかし、レズビアンで育った人や精子提供によって生まれた人なら知っている。

自分の擁護活動について話すことができ嬉しい。生殖補助医療の使用に必ずしも直接関係しないトピックについても話すことができたことに特に感謝している。Them Before USは特定の大人のグループに焦点

を当てていない。すべての大人が子供のために犠牲を払うべき。米国の家族の最悪の状態は、主に同性カップルによるものではなく、異性愛者のカップルの失敗によるもの。

(2022年2月)

Katy Faust [Link](#)

同性婚に反対する活動家
子どもの権利を守るための団体 Them Before USの創設者であり、ディレクター。自身の伝的母親と父親が離婚し、その後、レズビアンの母親二人に育てられた。

著書



K. Faust, S. Manning, R. George. *Them Before Us: Why We Need a Global Children's Rights Movement*. 2021 New York: Post Hill Press